

第158回「産学官交流」講演会（静岡理工科大学）

『駿河湾海洋DX 先端拠点化計画～環境ゲノムと陸上養殖～』

主催：静岡市清水産業・情報プラザ（指定管理者：静岡商工会議所）

共催：新産業開発振興機構、静岡市産学交流センター（B-nest）

今回は、静岡理工科大学に協力いただき、第158回の講演会・交流会を開催いたします。多数の方のご来場をお待ちしております。是非この機会に大学関係者・講演者とはご交流いただき、今後の事業活動等にお役立ていただきますようご案内申し上げます。

開催日時 2025年10月23日（木）

講演会 16:00～17:30

名刺交換会（交流会） 17:45～18:30

会場 講演会 静岡市産学交流センター 6階 プレゼンテーションルーム

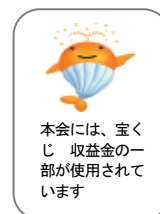
名刺交換会 同上

講演1 『駿河湾・海洋DX 先端拠点化計画と環境ゲノミクスからの挑戦』

静岡理工科大学大学院 理工学研究科システム工学専攻 教授 峯田 克彦氏

講演2 『産学官連携によるクルマエビ陸上養殖への取り組み』

静岡理工科大学 理工学部 物質生命科学科 教授 吉川 尚子氏



参加料 無料

定員 会場聴講：40人

申込方法 下記申込書に記入してFAX、e-mailで申し込み下さい。

尚、右記QRコードからも申し込みできます。

事務局 静岡商工会議所 産業振興課（担当：稲葉、堀川）

TEL:054-355-5400 FAX:054-352-7817 E-mail:info@siip.jp

※大学側との積極的な交流を図るためにも、ぜひ名刺交換会までご出席下さい。



第158回「産学官交流」講演会・交流会 参加申込書（静岡理工科大学）

2025年10月23日（木）開催

Fax 054-352-7817

事業所名		TEL	
所在地		FAX	
参加者名	(役職名:)	(役職名:)	
e-mail			

※お手数ですがe-mailアドレスの記入をお願い致します。

※ご記入いただきました情報は、商工会議所からの各種連絡・情報提供のために利用することがありますので、ご了承ください。

講演1 『駿河湾・海洋DX先端拠点化計画と環境ゲノミクスからの挑戦』

静岡理科大学大学院 理工学研究科システム工学専攻 教授 峯田克彦 氏

【講演要旨】

昨年、内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」事業に採択された「駿河湾・海洋DX先端拠点化計画」では、静岡市・静岡県をはじめ、静岡理科大学、静岡大学、東海大学などの県内外の大学、MaOI機構などの研究機関、さらに鈴与グループやNTTグループといった中核企業が連携し、推進体制を整えています。本計画では、駿河湾を舞台とした海洋DXの研究開発拠点の形成、大学院修士課程による人材育成、そして海洋関連の新産業の創出を一体的に進めることを目的としています。本講演では、この計画の概要をご紹介しますとともに、採択研究の一つである講演者らの取り組み「環境ゲノミクスによる駿河湾水産資源の見える化」を例に、駿河湾と静岡地域の発展、そして世界への展開に向けた展望についてお話ししたいと思います。



【略歴】

静岡県三島市出身。静岡県立沼津東高校を経て、東京大学農学部農芸化学科、同大学院修士課程を修了。総合研究大学院大学博士課程（国立遺伝学研究所）にて、博士（理学）の学位を取得。国立遺伝学研究所、北海道大学、理化学研究所、米国シカゴ大学で博士研究員として研究に従事。帰国後、北海道大学に助教授（現准教授）として着任。その後、サウジアラビアのアブドラ国王科学技術大学（KAUST）において教育・研究活動を行う。2022年より早稲田大学研究院教授、2024年11月からは「駿河湾・海洋DX先端拠点化計画」の招聘研究者として静岡理科大学・教授に着任。環境ゲノミクスを中心に、海洋DXやマリンインフォマティクスに関する教育・研究を進めている。現在、マリンオープンイノベーション（MaOI）機構・副研究所長も務める。

講演2 『産学官連携によるクルマエビ陸上養殖への取り組み』

静岡理科大学 理工学部 物質生命科学科 教授 吉川 尚子 氏

【講演要旨】

「駿河湾・海洋DX先端拠点化計画」事業の一環であるマリンインフォマティクス研究機構において、研究課題「IoT/AIを駆使したクルマエビの次世代型陸上養殖技術の開発」に取り組んでいます。クルマエビは、容姿が美しく美味であることから、我が国では古くから沿岸漁業と養殖の重要種として位置付けられてきました。本研究では、静岡県で初めてクルマエビの閉鎖循環式陸上養殖技術を確立し、親エビの養成を行うことで、親エビの安定供給を実現し、持続可能なクルマエビ生産を目指します。陸上養殖技術は、気候や環境に左右されず、環境への負荷も軽減でき、エビ類に甚大な被害をもたらすウイルス性疾患などの感染症の蔓延を防止することができ、近年注目されています。本研究で開発される生産技術は、クルマエビの栽培漁業を支えるとともに、新たな産業を生み出し、地域貢献できるものと考えています。本講演では、現在の取り組みおよび今後の展望についてお話しさせていただきます。



【略歴】

東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻博士課程修了 博士（農学）。独立行政法人国立健康・栄養研究所特別研究員、埼玉医科大学ゲノム医学研究センター研究員、東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻 特任助手を経て、2024年より静岡理科大学理工学部物質生命科学科教授。専門は、水圏生命科学、食品化学。特に、クルマエビにおけるD-アミノ酸の生理機能に関する研究を行っている。